

令和2年度 セミナー 教科リフレクションシート

実施日	教科	名前	単元・題材名
7月29日(水)	国語科		「まいごのかぎ」
<p>目指す子供の姿</p> <p>「りいこ」が行った「よけいなこと」は、「本当によけいなことだったのか」について、叙述や場面の移り変わり結びつけながら話し合う活動を通して、「りいこ」自身の出来事に対する捉え方が変化していることに気付いていく姿。</p>			
<p>手立て</p> <p>自他や他者同士における「言葉による見方・考え方」の比較や統合を促す発問・問い返し・指示</p> <p>本時では、展開後半で仮定の存在(他者)の考えを提示し、児童の思考にゆさぶりをかける。そうして、自分の考えとのずれに出会うことで、他者がなぜそう考えるのかを追思考し、登場人物に対する認識を更新させていく。</p>			

1. 研究協議を経た成果と課題

教師と子供の言動	観察者の分析
<p>T: 実はさ、有佐先生がこんなことを言っているんだよね。(りいこは余計なことを1つもしていませんね。)</p> <p>C: ええー。なんで?</p> <p>C: なに言ってるのー! 一つはしてるよー!</p> <p>C: 理由が聞きたい!</p> <p>T: 有佐先生の気持ちがなんとなくわかるよという人はいる?</p> <p>C: 多分一番最後に「気付いたのです。」って書いてあって、それは木にかぎを刺さなきゃわからなかったことだから…。</p> <p>C: ああ、わかったわかった!</p> <p>T: わかったの? 今の話は何場面のこと?</p> <p>C: 8場面!</p> <p>T: 「はっと気づいた」がポイントなんだね。</p> <p>C: きっと元に戻したから大丈夫だったんだ。</p> <p>T: さっき「わかったわかった」と言っていた○さん。</p> <p>C: りいこは自分でよけいなことしちゃったって言っているけどさ、7場面の最後に「みんなも</p>	<p>○自分の考えのズレと出会い、なぜそう考えるのかを明らかにしようとしている。</p> <p>○他者がなぜそう考えるのかを追思考しようとしている。</p> <p>○友達の話をきいてわかったことを再話させ、共有化を図ろうとしていた。</p>

<p>好きに走ってみたかったんだね。」って書いてあって、りいこがみんなとつながったから、よけいなことじゃないってことかな。</p>	
<p>C: ええ? りいこことみんながつながった?</p>	
<p>C: だからね、なんて言ったらいいんだろう…。自分ではと気づいて、みんなも好きに走ってみたかったんだねって言っているから…。</p>	<p>○ 友達の意見を聞いて、率直な疑問を投げかけていた。</p>
<p>T: 今言いたかったこと、気持ちわかるよっていう人いる?</p>	
<p>C: ちょっとわかるけど、説明はできないな…。</p>	
<p>T: ○○さん教えてくれる?</p>	<p>● なんとか自分でわかろうとしていたが、うまく言葉が出てこず、困っていた。ここで教師の支援があればよかった。</p>
<p>C: なんかさ、鍵穴にさし込んだら、物の気持ちがあった…?</p>	
<p>T: うーん…。どうのことだろう。ペアの3人で、○○さんの言いたかったことこういうことじゃない? って相談してみてください。</p>	<p>○ ● ペアで、友達の言いたかったことを共有させようとしていたことはよかったが、話合いに参加できない子が多かった。この時点で、かなりの子が話合いの土俵から落ちていた。</p>
<p>C: (3人で相談する)</p>	
<p>T: 結局、りいこのしたことはいいことにつながったの?</p>	
<p>C: 鍵をさしたら、いろいろと物の気持ちがあったから…。</p>	<p>● ねらいとしていたりいこ自身の物の見方の変容ではなく、物の気持ちがあったという方向に話が進んでいった。</p>

の言動より

りいこ自身の出来事に対する捉え方が変わったのではなく、鍵を指すことで「何かいいことが起きた。」という視点で話が進んでいったので、本時で目指す姿とずれていた。

の言動より

友達の話を聞いて、率直な疑問を投げかけたり、何とか理解したいんだけど、うまく説明ができないと話したりしていた姿から、Fsの発揮が見られたのではないかと感じた。反対に、友達の話をうまくペアで共有できなかった姿から、Fsがうまく発揮されなかった姿も感じられた。

2. 授業者および教科担当者からの本時の考察と評価改善の見通し

- ▲展開後半で、ゆさぶり発問を行った際に、ほとんどの子が思考停止してしまい、一部の子だけで話し合いが進んでしまった。そのため、考える手がかりとなるセンテンスカードを用意したり、前時までの学びを振り返ったりすることで、授業の最後まで全員参加が実現できる手立ての工夫が必要であると感じた。今後は、子供たちが躓きそうな場面をしっかりと想定し、必要な支援を準備しておきたい。
- ▲ゆさぶり発問後に、L sを発揮していたと感じる児童が数人見られたが、その児童の考えをうまく全体で共有することができなかった。そのため、「もしかしてこういうこと？」と話したり、「〇〇さんが言いたいのはきっと…だと思う。」と考えたりする学びの姿勢を、普段の授業でもっと養っていく必要があると感じた。
- ▲「よけいなことはいくつあるか」という最初の発問に対して、教師による子供の考えの見取りが甘かった。この時点で、「よけいなこと」に対する考え方のズレが子供たちの中で起きていたので、教師がそのズレに気付き、焦点を当てていたら、わざわざ仮定の他者を出さなくても議論が起き、L s・F sを発揮しながら本時で目指す子供の姿を実現できたかもしれない。今後は、一人一人の考えの見取りを丁寧に行い、ファシリテートしていけるように心がけたい。

本時の展開（6/8）

Before

（1）本時の目標

りいこがした「よけいなこと」は全部でいくつあるかについて考え、話し合うことを通して、物語終盤で「よけいなこと」に対するりいこの捉え方が変わることに関心し、登場人物の変化についてわかったことを、ノートに書くことができる。

（2）本時の展開

学習活動 児童・生徒の姿 教師の働きかけ（○発問、△補助発問、□指示・説明） 手立て	【評価の観点】 ◇評価の内容 ・指導上の留意点
<p>1、本時の問題と出会う。 ○穴の開いた場所にはなんという言葉が入るでしょう？ ・教科書から探す。 ・かんだんだよ。 ・「よけいなこと」でしょ。 ○りいこがした、よけいなことは、全部でいくつでしょう？ ・本時の問題をノートに書く</p> <p>2、本文を読んで、「よけいなこと」を探し、ノートに書く。 □1、2場面を「よけいなこと読み」します。りいこが「よけいなこと」をしていると思ったら、拍手をしてください。 ・「しょんぼりと歩きながらつぶやきました」で拍手をする。 ・そこは関係ないよ！ ・「かわいいうさぎを付け足しました。」で拍手をする。 ・「あわてて白い絵の具をぬってうさぎを消しました」で拍手をする。 ・えっ？それも「よけいなこと」なのかな…？ □続きは自分で音読します。「よけいなこと」を探しながら読んでください。 ・個人で音読をする。 □りいこがしていた「よけいなこと」を、ノートに書きましょう。 ・さくらの木にかぎをさした。 ・ベンチにかぎをさした ・魚にかぎをさした ・バス停の看板にかぎをさした ・絵にうさぎを付け足した。 ・かぎを拾った</p> <p>3、「よけいなこと」はいくつあるかについて話し合う。 □りいこはいくつ「よけいなこと」をしていましたか？教えてください。 ・2の活動で見つけた「よけいなこと」を伝え合う。 ・うんうん ・納得 ・あっ、それもあったか！ ・えっ、それもよけいなこと？ ・りいこはよけいなことを一つもしていないと思うな… ・りいこのおかげで、みんな楽しめたんじゃないのかな。 △実は、3年1組の中村先生は、「りいこは一つもよけいなことをしていない」と言っているんですよ…。なぜだと思いますか？～Ⅱ ・えっ？それはおかしいよ。 ・よけいなことしてるよ。 ・どうしてだろう… ・あっわかった！ ・りいこのおかげでみんな遊べている！ ・みんなの気持ちにりいこが気付いたんだ。 ・よけいなことじゃない！</p> <p>4、本時のふり返しをする。 □りいこは、最初と最後でなにが変わったか、ノートに書きましょう。 ・りいこの考え方が変わった。 ・よけいなことだと思っていたことが、よけいなことじゃないと思直した。 ・よけいなことばかりしてしまうと思って落ち込んでいたりいこが、最後は自分のしたことがよけいなことじゃなかったことに気付いて、元気を取り戻していた。</p>	<p>・空所を作ってセンテンスカードを2枚提示する。</p> <p>・教師が1・2場面を範読し、児童が拍手することで、「よけいなこと」とは何かを、全体で確認していく。</p> <p>・拍手をする場所でズレが生まれることが想定されるため、必要に応じて理由を尋ねる。</p> <p>・「○○をした」という書き方を提示することで、どの子も書きやすいように支援する。</p> <p>・児童の考えで「0」という立場が現れなかった場合は、補助発問で、仮定の存在を登場させ、考えをゆさぶる。</p> <p>【思・判・表】 ◇登場人物の変化についてわかったことを、ノートに書いている。</p>

本時の展開（6/8）

After

（1）本時の目標

りいこがした「よけいなこと」は全部でいくつあるかについて考え、話し合うことを通して、物語終盤で「よけいなこと」に対するりいこの捉え方が変わることには気が付き、登場人物の変化についてわかったことを、ノートに書くことができる。

（2）本時の展開

学習活動 児童・生徒の姿 教師の働きかけ（○発問、△補助発問、□指示・説明） 手立て	【評価の観点】 ◇評価の内容 ・指導上の留意点
<p>1, 本時の問題と出会う。 ○穴の開いた場所にはなんという言葉が入るでしょう？ ・教科書から探す。 ・かんたんだよ。 ・「よけいなこと」でしょ。 ○りいこがした、よけいなことは、全部でいくつでしょう？ ・本時の問題をノートに書く。</p> <p>2, 本文を読んで、「よけいなこと」を探し、ノートに書く。 □1, 2場面を「よけいなこと読み」します。りいこが「よけいなこと」をしていると思ったら、拍手をしてください。 ・「しょんぼりと歩きながらつぶやきました」で拍手をする。 ・そこは関係ないよ！ ・「かわいいうさぎを付け足しました。」で拍手をする。 ・「あわてて白い絵の具をぬってうさぎを消しました」で拍手をする。 ・えっ？それも「よけいなこと」なのかな…？ □続きは自分で音読します。「よけいなこと」を探しながら読んでください。 ・個人で音読をする。 □りいこがしていた「よけいなこと」を、ペアで確認しましょう。 ・さくらの木にかぎをさした。 ・ベンチにかぎをさした ・魚にかぎをさした ・バス停の看板にかぎをさした ・絵にうさぎを付け足した。 ・かぎを拾った</p> <p>3, 「よけいなこと」はいくつあるかについて話し合う。 □りいこはいくつ「よけいなこと」をしていましたか？教えてください。 ・2の活動で見つけた「よけいなこと」を伝え合う。 ・うんうん ・納得 ・あっ、それもあったか！ ・えっ、それもよけいなこと？ ・りいこはよけいなことを一つもしていないと思うな…。 ・りいこのおかげで、みんな楽しめたんじゃないのかな。 △実は、3年1組の中村先生は、「りいこは一つもよけいなことをしていない」と言っているんですよ…。なぜだと思いますか？～II ・えっ？それはおかしいよ。 ・よけいなことしてるよ。 ・どうしてだろう？ ・あっわかった！ ・最後に気付いたからじゃない？ ・それはどういうこと？ △中村先生は、この場面に注目したらいいのですが、何か手掛かりになりそうですか？ ・りいこがみんなの思いをかなえたからじゃないかな。 ・みんなを楽しくさせられたから、余計なことじゃないんだ。 ・それをりいこ自身が気付いたから、プラスの気持ちに変わったんだ。</p> <p>4, 本時のふり返しをする。 □りいこは、最初と最後でなにが変わったか、ノートに書きましょう。 ・りいこの考え方が変わった。 ・よけいなことだと思っていたことが、よけいなことじゃないと思直した。 ・よけいなことばかりしてしまうと思って落ち込んでいたりいこが、最後は自分のしたことがよけいなことじゃなかったことに気付いて、元気を取り戻していた。</p>	<p>◇評価の内容 ・指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空所を作ってセンテンスカードを2枚提示する。 ・前時の板書（場面ごとの心情の移り変わり）を提示してから問いかける。 ・教師が1・2場面を範読し、児童が拍手することで、「よけいなこと」とは何かを、全体で確認していく。 ・拍手をする場所でズレが生まれることが想定されるため、必要に応じて理由を尋ねる。 <p>・児童の考えで「0」の立場が現れなかった場合は、仮定の存在を登場させ、考えをゆさぶる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の心情曲線を提示し、7場面で+の気持ちに変わるところに注目させる。 ・心情曲線で気付けない場合は、ポイントとなる叙述をカードで提示する。 <p>【思・判・表】 ◇登場人物の変化についてわかったことを、ノートに書いている。</p>